

駆け抜けた35年間

あの時代走った、おかあさん・おとうさんの現在

35年前、美里村が美里町になった年の10月10日に、記念すべき第一回町民体育祭が行われました。住民が一堂に会する体育祭は、それまでも村民体育祭として18回行われてきており、体育祭の歴史は村・町と合わせると半世紀以上にもなります。

第一回町民体育祭が行われた年の町広報紙によると、当時、参加者は3,800名、会場は遺跡の森総合公園がまだなかつたため、美里中学校のグラウンドで行われました。競技種目も現在とは違い、棒で樽を転がして運ぶ速さを競う「樽転がし」や、「パン食い競争」などユニークなものがありました。



走り続けるこれから



永年行われている体育祭。場所や競技種目が変わっても優勝を目指して競技・応援に一生懸命取り組む様子は、今も昔も変わりません。また、応援や練習、競技をとおして地域住民同士の親睦が深まり、地域住民同士の連携が町の力になっています。

町民体育祭をとおして深まる親睦と連携を力に、美里町はこれからも走り続けます。

岡部正美さんは、「ここに写っているのは私じゃなくて兄の順一だよ。当時私は仕事ででれなかつたんだよ」と話すのは当時の広報紙の表紙左側に写っている男の子、岡部浩二さんの父、岡部正美さんです。岡部浩二さんは高校2年生の時に脳腫瘍による手術の影響で、目と体の平衡感覚に障害が残り、そして、今年の5月に体調を崩し7月に亡くなりました。浩二さんの母、良江さんは「浩二が亡くなった年に浩二の6歳のころの写真に出会えた。そしてまた浩二が広報に載る。これはなにかの縁なのかもしれないね」と話す正美さんと共に取材に協力してくれました。

正美さんは「体育祭には3年ぐらい前まで出ていた。字別対抗リレーに出たこともある」と話す「当時は今に比べて住んでいる地区の世帯数が少なかった気がする。少ない分まとまりがあったと思う」と懐かしみながら語ってくれました。

浩二さんについては「とても活発な子でかけっこが速かった。小学校でリレーのアンカーを任せられたりしていた」と語りしげに話してくれました。これまで振り返って「いろいろあったけど、住んでいて美里町はとてもいいところ。町がこれからも元気に存続できるように、町外からの転入者が増えればいいな」と語ってくれました。



岡部正美さん



嶋沢節子さん

当時の広報紙の表紙中央に写っている、嶋沢節子さんにお話を聞きました。「この時、広報の表紙に載ったことも、娘の智美と一緒に親子競走に出席したことも覚えてています。仕事と育ててであつたという間に過ぎた時間。この日のことがつい最近のことのよう」。続けて、「今は若いかたが出てくれるので、私も身体祭には出なくなつたけど、昔はよく出てました。段ボールを重ねて持つて走る競技があつてね、落とさないよう頑張つて走ったのを覚えてるわ」と笑顔で話してくれました。

これから町民体育祭のことを聞くと「体育祭には若いかたがいっぱい出て、もっともっと盛り上がつてくれたらしいと思います。私も体育祭にして、さらに、「35年間を振り返ると、子育てや仕事で1日が過ぎるのがあつた」という間でした。みんなそうだったと思いますが必死でした」と語ってくれました。



千田ヒサ江さん

「今年は孫が町民体育祭に出たので応援にきました。息子のお嫁さんと一緒に『がんばれ』、「ぬかされるなー」と精一杯応援しました」と語るのは、当時の広報紙の表紙右側に写っている、千田ヒサ江さんです。当時、娘の純子さんと一緒に親子競走に出場したヒサ江さん。当時の広報の表紙を見てみて懐かしく感じていました。

第1回町民体育祭が行われた、昭和59年の広報みさと11月号の表紙を飾ったかたに、お話を伺いました。

広報みさと 11月号
ひとりひとりを大事にする町
岡部正美さんの兄 岡部順一さん
嶋沢節子さん
千田ヒサ江さん
浩二さん
純子さん
智美さん
はやく！おがあさん。
1970年、第1回町民体育祭の開催祝賀
記念式典のときのものです。
(昭和59年11月号)